

市民公開講座

病理医と共に がんを学び、がん治療の未来を考える

- 日時：6月23日（土）16：00～18：00（開場 15：20）
会場：さっぽろ芸文館 3階 瑞雪の間（B会場）
司会：笠原 正典（北海道大学大学院医学研究院 分子病理学教室）
西川 祐司（旭川医科大学病理学講座 腫瘍病理分野）
演者：「がんを見極める－病理診断の役割－」
松野 吉宏（北海道大学病院 病理診断科）
「がん免疫研究の最前線と免疫療法の展望」
鳥越 俊彦（札幌医科大学医学部 病理学第一講座）
「がん治療の進歩－分子標的治療とがんゲノム医療－」
秋田 弘俊（北海道大学大学院医学研究院 腫瘍内科）

「病理」という医学の分野は一般の方々にはあまり馴染みがないことと思いますが、病気の診断や治療に関して大事な役割を担っています。特にがん診療では、がんの確定診断をおこなうとともに、組織型や進行度などを評価し、臨床的な予後、治療反応性など、診療にとって重要な情報を臨床医に提供しています。また、病理は病気の成り立ちを明らかにする医学の根幹をなす学問です。現在、がん発生のメカニズムが遺伝子レベルで明らかにされ、新しい分子生物学的手法による有効な治療法を提供できるようになっています。この市民公開講座では、がん診療における病理診断の重要性、がん免疫研究をはじめとする最新のがん研究の現状、ドライバー遺伝子を標的とする分子標的治療、がんゲノム医療などについて専門の先生方にわかりやすく解説していただきます。